

小学生における食物アレルギーの推移

出典 慶應保健研究(1340-9379)27巻1号 Page59-63(2009.08)
(<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2010073872>)

著者 外山千鈴 他

調査地域 東京都

調査時期 1998～2007年

調査対象 小学1年生(6歳)

有効回答数 1392人

診断方法 自己申告(既往)

有症率 3.4%

調査概要 都内小学校の食物アレルギーを縦断的に調査した論文。
学年が上がるにつれて申請率は増加し、原因食品は乳製品が減少し、果物、
魚類が増加した。年次変化では乳製品の減少と甲殻類、果物類、魚類の増加
があり抗原の多様化を認めた。